

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センターあんま担当圏域レベル）  
開催報告書

1 開催日時 令和7年12月4日（木） 10時00分～11時30分

2 開催場所 蒲協働センター ホール

3 参加者 32名

委員18名（蒲地区：6名、和田地区：5名、中ノ町地区：7名）、関係機関10名、事務局4名

4 協議の内容

1. 開会

会長よりあいさつ。

2. 前回の振り返り

前回会議の振り返り、今年度の進め方、本会議のテーマ及び進め方について事務局より説明。

3. 情報提供『地域における「交流」に関する取り組みの紹介』

事務局より情報提供を実施。

4. 協議事項

協議①（地区混合グループワーク）

テーマ：情報提供を踏まえて感じたこと、各地区に聞いてみたいこと

各グループで挙げられた意見については以下のとおり。

Aグループ

■中ノ町地区自治連 委員

お月見の会は、以前は神主を招いて開催していたが、担い手の高齢化により中止した。

また、新たなイベントを実施するには相応のエネルギーが必要であり、他地区の取組内容を実際に見聞きすることも必要だと感じている。

■和田地区社協 委員

「三世代交流ゲーム大会」は6年前から実施している。地区内各町で様々なイベントが開催されている一方、イベント自体が行われていない町もあり、それが開催のきっかけの一つとなった。

また、町ごとのイベントでは、居住町が異なる住民同士が同じイベントに参加できないという課題もあった。

#### ■中ノ町地区自治連 委員

各町3組まで出席可能としているが、参加者はどのように選出しているのか。

#### ■和田地区社協 委員

三世代での参加が可能な世帯に対し、直接声掛けを行っている。祖父が孫を連れて参加する世帯もある。

#### ■蒲地区社協 委員

蒲地区では10月に運動会を開催している。子どもの参加が少ない町もあり、他町から助っ人に来てもらうこともある。一方で、非常に盛況な町もあり、家族総出で参加し、優勝を目指す様子も見られる。

景品についても工夫しており、パスタ麺とパスタソースをセットにするなど、そのまま当日の夕食に活用できるものや、トイレットペーパーなど需要の高い日用品を用意している。

また、各町の取組を共有する機会がなく、それぞれ良い取組を行っているだけに、情報共有できていない点をもったいなく感じている。

#### ■中ノ町地区社協 委員

地区社協の定例会には、自治会、民児協、シニアクラブの会長も参加しており、地区内の情報はその場で共有できている。サロン活動についても、代表者を集めた会議を開催している。

また、町を問わず住民が参加できる行事も企画しており、多くの参加者から好評を得ている。

#### ■中ノ町地区SC連 委員

サロン活動等で練習した成果を披露する場も設けている。「みんなの会」では、バンド演奏やハンドベルの披露などが行われた。

#### ■市社協 CSW

地区社協総会等で演奏を披露することも有効ではないか。こうした取組を組み合わせることで、楽しさを加えつつ、意欲的な参加につながると考えられる。

#### ■蒲地区自治連 委員

過去には運動会でリレーなど競争を伴う種目を実施していたが、白熱し過ぎてケガの危険性が生じた。現在は、競争を伴わない種目を中心に実施している。

## Bグループ

### ■中ノ町地区自治連 委員

お月見の会とふれあい会を担当する活動部会があり、部長・副部長は各町の自治会長が持ち回りで務めている。

また、部員には中ノ町のPTA会長やサロン代表者が自動的に含まれる仕組みとなっており、多様な人材を巻き込んだ運営ができています。手挙げ方式では担い手が集まりにくいいため、有効な仕組みだと感じています。

さらに、自治会長退任後も、本人が退任の意思を示すまで地区社協役員として在任する仕組みがあります。

ふれあい会は、1月12日（月）10時から中ノ町自治会館で開催予定であり、他地区の協議体委員にも参加してもらいたいと考えています。

### ■中ノ町地区民児協 委員

中ノ町地区では、「若者が地域行事に参加しない要因」について継続的に検討してきました。その結果、幼稚園やPTAを巻き込む体制づくりを進めてきた経緯があります。

現在は、地域住民同士の「顔の見える関係」が構築されていると感じています。顔の见えない相手に役割を依頼することは難しいため、若者とも顔の見える関係を築くことを意識して取り組んでいる。

マニュアルだけでは活動の良さや意義は伝わりにくいいため、実際の活動を直接見ってもらう機会を大切にしています。

### ■和田地区自治連 委員

和田地区では、地区社協と自治会が一体的に活動しています。自治会長が地区社協役員を兼ねる体制は、役員への成り手不足という現状を背景に構築されたものである。

かつては地域の伝統行事に多くの住民が参加していたが、近年は参加者が減少しています。住民が興味・関心を持てる「とっかかり」があれば、参加者増加につながる可能性があると感じています。

### ■和田地区社協 委員

三世代交流では、高齢者が子どもに紙飛行機の飛ばし方を教えるなど、世代を超えた交流が生まれている。

家族単位でチームを編成できない場合には、他の家族と合同でチームを組む工夫を行い、交流促進につなげている。

こうした取組については、他地区の協議体委員にも実際に見学してもらいたいと考えています。

### ■蒲地区民児協 委員

蒲地区は地区が広く、町単位での活動が中心となっている。地区全体の行事としては、町民体育大会や協働センターまつりが主である。

サロン代表者会は、以前見学した際に非常に良い取組だと感じた。町を中心にサロンを開催しているため、各町のサロンが集まり、相互に意見交換できる点が特徴である。

### ■中ノ町地区民児協 委員

各地区には、それぞれ地域特性に応じた運営の経緯がある。他地区の運営方法を参考にする際には、そのまま取り入れるのではなく、自地区の特性に合わせた工夫が重要である。

また、役員が運営方法の見直しや変更を行うためには、活動内容や実態を十分に理解していることが必要だと考えられる。

### ■中ノ町地区自治連 委員

天竜中学校の校長から、「生徒をボランティアとして地域行事に参加させてほしい」との依頼があった。これを受け、白鳥町の祭りに中学生が参加できるよう、校長から生徒へ直接声掛けを行ってもらった。

小学生まではおはやし等を通じて祭りに参加していたが、中学生になると役割がなくなり、地域とのつながりが途切れてしまうと感じていた。

中学生に運営側を体験してもらうことで、運営に携わる側の思いを理解し、地域との関係性を継続していきたいと考えている。

### Cグループ

#### ■和田地区民児協 委員

中ノ町地区の「お月見の会」には、幼稚園児から高齢者まで幅広い世代が参加していた。和田地区でも三世代交流は行っているが、参加者が限定されている印象がある。多様な世代の参加をどのように促しているのかを知りたい。

#### ■中ノ町地区自治連 委員

中ノ町では、「ゆずり葉」という団体が各町のサロン活動を補助している。他地区では、各町のサロンをどのように展開しているのかを聞きたい。

また、祭りも交流の場としての機能が縮小している印象がある。自身が参加した居場所活動では女性の参加が多く、男性が参加しにくい点が課題だと感じた。

### ■蒲地区自治連 委員

サロンでは女性の参加が多く、男性は希少で、参加すると目立つほどである。

また、サロンを引き継ぐ担い手が現れず、今後の継続に不安を感じている。ただし、新たに1人参加するだけでも状況は変わる可能性があると考えている。

### ■和田地区社協 委員

三世代交流事業において、どのように参加を促しているのかを知りたい。和田地区の三世代交流についても様々な意見はあるが、当日は楽しそうに参加する様子が見られる。

高齢者を対象とした事業が多い中で、三世代交流は重要な取組であると感じている。

また、和田地区には多くのサロンがあるが、活動内容を十分に把握できていないため、過去に検討したサロン代表者会議について、改めて検討してもよいのではないかと感じた。

### ■中ノ町地区社協 委員

「お月見の会」には、幼稚園もPRを兼ねて参加している。多様な世代に参加を促すため、自治会内の各部会ネットワークを活用した声掛けや、全戸配布による周知を行っている。

また、代表者選出の際には、できるだけ若い世代に担ってもらうことで、活動の継続につなげたいと考えている。

### ■蒲地区社協 委員

蒲地区のサロンは、中ノ町地区のように1団体が各町を補助する体制ではなく、各町が独立して活動している。民生委員が多く関わりながら運営している様子が見られる。後任については、意識的に探さなければなかなか見つからないと感じている。

### 協議②（地区別グループワーク）

テーマ：・協議①で挙げられた内容についての共有

・今後考えられる取組みについて検討

各グループで挙げられた意見については以下のとおり。

### 蒲地区

### ■蒲地区自治連 委員

サロン活動では男性の参加が少ないが、ゲーム形式の取組は比較的盛況である。

地区で実施している運動会では、町別対抗リレーを廃止し、ムカデ競争等を取り入れたところ、転倒やハプニングも見られたものの、こちらも盛況であった。一方で、参加人数全体としては減少傾向にある。

#### ■蒲地区自治連 委員

シニアクラブの活動が停滞気味な町もある。助成金の報告が煩雑であることなどを理由に、市老連への加入を避けているケースも見られる。

「町の花づくりグループ蒲」の活動は、幼稚園や小学校との連携が継続しており、親子と地域の高齢者がつながる場となっている。

#### ■蒲地区自治連 委員

活動に新たに参加する人が減少傾向にあるため、引き継ぎを丁寧に行うことの重要性を感じている。

#### ■蒲地区社協 委員

「町の花づくりグループ蒲」においても、新規参加者は減少している。活動には車を使った物品運搬が必要な場面もあり、会員の家族の協力によって成り立っている側面もある。

後継者の確保は今後の大きな課題である。

#### ■蒲地区民児協 委員

家事支援事業においても後継者不足が課題となっている。先日の地区民児協定例会では、代表が出席し、一斉改選により退任する民生委員に対して活動への協力を呼び掛けた。

#### ■蒲地区自治連 委員

後継者が見つかって70代以降であることが多い。50～60代は地域との関わり自体が希薄な傾向にあり、活動には参加していても役員を引き受けたくないという人が多い。

#### ■市社協 CSW

各サロン等の取組について、相互に情報共有はできているのか。また、そのための集まり等はあるのか。

#### ■蒲地区社協 委員

各町では民生委員がサロン運営に関わっていることが多く、民生委員が交代しても運営が引き継がれる流れができている。

民生委員同士での情報共有は行われているが、地区社協としての定期的な会議等は現状行われていない。

## 和田地区

### ■和田地区自治連 委員

中ノ町地区では、今後も獅子舞などの季節行事を実施すると聞いている。こうした行事に幼稚園児などの子どもが参加すれば、保護者や祖父母の参加にもつながるのではないかと感じた。

また、中学生についても、ボランティアとして参加してもらえる可能性があると考えられる。

さらに、中ノ町地区の役員選出の話聞き、役員は充て職であっても、まず一度経験してもらうことが、その後の活動参加につながるのではないかと感じた。任期が明確であれば、声掛けもしやすいと思われる。

### ■和田地区民児協 委員

中ノ町地区の自治会では部会を設けていると聞いた。子ども会では、小学6年生の保護者が役員になると、卒業と同時に役員も退任するケースが多く、結果として在任期間が1年程度となってしまふ。

災害対応の現場において、様々な層のネットワークが重要であることを実感している。その意味でも、子どもから高齢者まで継続して所属できる部会を設けることは有効ではないかと感じた。

### ■和田地区社協 委員

和田地区社協では自治会長が構成員となっているものの、地区社協に所属しているという認識は弱いと感じている。地区社協としての組織基盤について、改めて検討する必要があるのではないかと。

サロンについても地区社協に関わる事業であるが、活動内容を詳細に把握できていない。

### ■和田地区社協 委員

地域で行われている防災の取組は、地域住民や団体同士の横のつながりを生む有効な取組であると感じている。

### ■市社協 CSW

部会の設け方は地区によって様々であり、子ども部会や高齢者部会など対象別に設けている地区もあれば、家事支援部会や広報部会など事業別に設けている地区もある。

また、自治会や民生委員を退任した後に地区社協へ所属するなど、各団体の役職を充てるためのルールを設けている地区もある。

防災のように、組織間連携を深めることを目的として交流事業を企画している地区もある。

#### ■和田地区社協 委員

退任した民生委員をスクールコーディネーターとして活用している地区もある。

#### 中ノ町地区

#### ■中ノ町地区自治連 委員

和田地区の三世代交流は、地域住民同士の交流のきっかけになっていると感じている。今後の参考とするためにも、一度見学を行いたい。

同様の取組は短期間で実施できるものではないため、複数名で見学し、内容を十分に理解した上で検討していきたい。

また、中ノ町地区では自治会と地区社協が一体的に活動しており、運営の仕組みが工夫されていると感じている。

#### ■中ノ町地区社協 委員

中ノ町地区では、伝統的な行事を継承しながら活動しているが、今後は新たな視点を取り入れた工夫も必要だと感じている。

各サロンの作品を披露する機会が設けられており、サロン同士が相互に刺激を受け合う場となっている。

#### ■中ノ町地区SC連 委員

シニアクラブで作成した作品（絵手紙、絵画、書道等）を出展する機会があり、来場者からも好評であった。

町内には表に出ていない才能を持つ住民が多いと感じており、そうした作品を披露する場を設けることは有効である。

一方で、中ノ町地区では町単位でのイベントが少ない。以前は各町で運動会を開催していたが、現在は行われていないため、今後は町単位でのイベント再開も検討していくとよいのではないかと感じている。

#### ■中ノ町地区自治連 委員

今回の協議で特に印象に残ったのは、中ノ町地区社協の運営の仕組みが工夫されている点である。

#### ■中ノ町地区民児協 委員

今回の協議を通じて、自地区の特性を踏まえたうえで、互いの取組を参考にしていく姿勢が重要であると改めて感じた。

### ■中ノ町地区社協 委員

蒲地区でボッチャを活用した活動が好評であったことを受け、中ノ町地区でも新たな活動を展開したいと考えている。

現在、茶道クラブの立ち上げを検討しており、会場を社務所とするか公会堂とするかについては検討中である。

活動は町内限定ではなく、地区全体に呼び掛けて実施したいと考えており、特に若い世代の参加があれば、活動に活気が生まれるのではないかと感じている。

また、地区社協だよりの全戸配布による周知は効果的であった。

### ■中ノ町地区自治連 委員

サロンを支えるボランティアグループ「ゆずり葉」に所属しているが、活動を継続していく上で、自身より若い世代の加入が進んでいない点に不安を感じている。

全体共有

- ・各グループでの協議内容の共有

### 7.その他

- ・次回日程について

日時：令和8年2月19日（木）13：30～15：30

会場：天竜協働センター ホール

### 5 今後の見通し・ 必要な対応

本会議では、協議全体を通じて、交流に関する取組を推進していく上で、担い手の確保やそのための仕組みづくり、さらには運営者交代時における実務や意思の円滑な引継ぎの重要性が共有された。加えて、これらを円滑に進めるためには、情報共有や地縁活動への参加を促進するための仕組みが必要であるとの意見が挙げられた。

担い手確保は大きな課題として捉えられがちであるが、課題を細分化し、担い手確保に向けて何が必要かを具体的に検討する協議を行うことが大切と考えられる。

今後の会議においても、これまで継続的に挙げられてきたテーマを踏まえつつ、各地区の時事的なキーワードにも目を向けながら、協議を進めていく見通しである。